

「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部教育学研究科 3年 松本愛

今回、9月の半ばに2週間ベトナム国家大学ハノイ校にて、現地の学生と交流しながらベトナムや日本について深く学んだ。それとともに、日本では出来ないような多くの経験から刺激を受けた2週間であった。プログラムの具体的な内容としては、まず1週目は人文社会大学で主にベトナムの文化や歴史を学び、2週目は外国語大学でベトナム語を学んだ。それぞれ、基本的には日本人学生のための授業であったが、何度かベトナム人学生の受ける授業にも参加し交流を深めた。ベトナム人学生は皆、初対面の私たちに積極的に話しかけてくれたため、はじめ緊張していた日本人学生もすぐに溶け込めたように思う。

授業に関して、日本人学生は渡航前にベトナム語の勉強やベトナムの基本知識の獲得は済ませていったが、やはり実際にベトナム人の先生に習ってみると、分かりやすいだけでなくその奥深さや面白さまで感じる事が出来た。また、週に1度は課外研修が行われ、ベトナムの伝統的な村や自然が作り出した壮大な湾などを、現地の方の説明を聞きながら観に行くことが出来たのは、貴重な経験となった。どの実地研修においてもベトナムの長く複雑な歴史や環境を学び、時には明るく、時には暗い過去に深く考えさせられた。

大学の講義や実地研修にて様々な経験をさせていただいたが、私が今回の2週間で最も刺激を受けたのは、何よりもベトナムの学生たちの存在だ。授業だけでなく、放課後や休日などは様々なところへ遊びに連れて行ってくれるなど密な時間を彼らと過ごしたが、彼らの明るさ、気遣い、熱心さ、知識の豊富さ、語学力、驚かされることばかりだった。日本人学生同士でさえお互いに初対面で緊張していたにもかかわらず、その中にベトナム人の学生は自然と溶け込み、日本人同士の仲まで取り持ってくれたように思う。私は初めてのベトナムで環境の変化に体がついていけない時も、すぐに気づき気遣ってくれた。また、日本に関する知識量の豊富さにも驚いたが、彼らにとって自国であるベトナムについてもよく勉強していると感じた。ベトナム女性博物館へと連れて行ってくれた時、展示品一つ一つに対して丁寧に説明をしてくれた時には感動した。私は海外の人とコミュニケーションを取りたいと思った時、相手の国のことばかり調べていたように思う。実際、今回ベトナムに行く際もベトナムについての本は何冊か読んでいった。しかし、彼らが知りたかったのは日本であり、日本人としての声だった。日本について深く知りたいと思う良い機会になったと思う。

そして、彼らの語学力には頭が上がりなかった。渡航前は英語を加えたコミュニケーションを取るのだと思っていたが、現地では学生との交流はすべて日本語だった。それほどに全く違和感のない流ちょうな日本語を話していた。それだけでなく、英語、中国語など複数か国語を話せる人がほとんどであった。語学を学ぶことで、こんなにも人との交流範囲が広くなり、且つ視野も広がることを、彼らを見て実感した。語学を真剣に勉強したいと心から思った。

渡航前は、自分にはない価値観に触れてみたくて、自分の知らない環境に身を置いてみたくて、ただその一心でこのプログラムに参加した。実際2週間を通して、人との関わり方やものの考え方に変化が見られたように思う。具体的には、より積極的に、そして細かなところまで意識がいくようになった。それほどまでに沢山の刺激に溢れたプログラムだったと思う。しかしながら、今振り返ると反省点もある。私は刺激が欲しい、新しいものに触れてみたいなどといった自分の欲求ばかりを優先させてはいなかっただろうか。ベトナムの学生たちは、私たち日本人学生と交流して何か得たものはあっただろうか。次海外の学生と交流するとき日本のことも十分に話せるよう、日々の生活を意識して過ごしたい。

最後に、このプログラムを主催して下さった先生方、共に参加した日本人学生、そして何よりも、現地で私たちをサポートして下さった学生の皆さまに、心から感謝いたします。ベトナムの学生たちにまた会えるよう、ベトナムのことも日本のこともこれから勉強していこう。